

九州がんセンター 看護の質評価

2. 看護の専門性の発揮

<抗がん薬による血管外漏出(血管の外へ抗がん薬が漏れること)>

抗がん薬投与時の血管外漏出は、その後の患者さんの治療に大きく影響するため、できる限り回避する必要があります。発生の危険性を客観的に評価し、安全な血管確保、抗がん剤投与時の観察、患者への指導などを実施することで血管外漏出が発生することを極力回避できるように取り組んでいます。

抗がん剤血管外漏出率 = 血管外漏出件数 / 化学療法実施件数 × 100 (%)

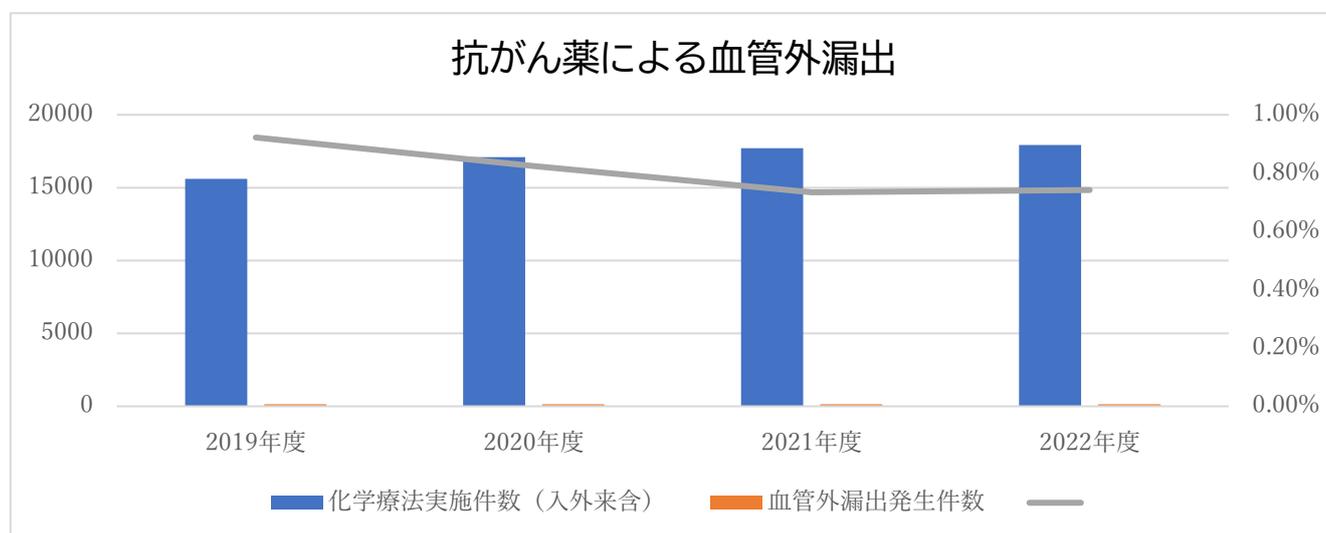
分母: 延べ化学療法実施件数 (適応プロトコール件数)

分子: 化学療法施行中の血管外漏出件数 (血管炎含む)

* 化学療法は入院・外来全患者対象

年度毎 血管外漏出発生件数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
発生件数	194	152	133	136
治療件数	15616	17103	17711	17938
発生率	1.24%	0.89%	0.75%	0.76%



2022年度 月別血管外漏出発生件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
血管外漏出件数	7	6	10	6	3	7	9	6	4	8	5	8
血管炎件数	4	6	5	3	5	5	3	1	4	4	3	3

